

## 自然の恵みを活かす復興に向けて 震災後の環境対策のあり方を考える

現在、東北地方の沿岸域では、防潮堤の工事が急速に進められています。防潮堤は、人間の生命や財産を守る一方で、海岸付近の固有の生態系やその連続性を妨げる恐れがあります。生物多様性と生態系の維持は、人間が将来にわたり豊かな生活を送る上で不可欠です。

将来のために、どのような堤防建設が望まれるのか。一緒に考えてみませんか？

- 開催日時：平成 25 年 1 月 16 日（水）13:00～17:30
- 場 所：仙台市青年文化センター（市営地下鉄：旭ヶ丘駅すぐそば）
- 主 催：応用生態工学会、日本生態学会
- 共 催：日本景観生態学会、植生学会、日本水産学会
- 後 援：東北環境アセスメント協会、（一社）建設コンサルタンツ協会東北支部

**★本研修会は、建設コンサルタンツ協会CPDプログラム(4.0 単位)として認定されました。**

### プログラム

#### 【話題提供】13:10～15:15

1. 「干潟生物群集に及ぼした津波の影響：インパクトとこれから」  
占部城太郎（東北大学大学院 生命科学研究科 教授）
2. 「汽水域の恵み：ベントス（底生生物）群集の特性とこれから」  
松政正俊（岩手医科大学 共通教育センター生物学科 教授）
3. 「砂浜海岸エコトーン植生の攪乱・再生体制が暗示する賢い復興の方向性」  
平吹喜彦（東北学院大学 教養学部 教授）
4. 「生態系の再生を支える“つながり”」  
鎌田磨人（徳島大学大学院 ソフトウェア工学研究部 教授）
5. 「漁場環境と水産業利用の観点から」  
清野聡子（九州大学大学院 工学研究院 准教授）

#### 【座 談 会】15:30～17:30

- ◆議 題「自然の恵みを活かす復興のための環境対策のありかた」
  - 自然の恵みのリストアップ、再認識、評価、存続条件、育成、活用手段
  - 環境対策の目標設定と枠組み
  - 技術的制約、社会的制約、法的制約
  - 地域活動の指針など
- ◆ファシリテーター：河野 博（東京海洋大学 海洋科学技術研究科 教授）
- ◆リアルタイムライター：津田 智（岐阜大学 流域圏科学研究センター 准教授）
- ◆コメンテーター：島谷幸宏（九州大学大学院 工学研究院 教授）  
鈴木孝男（東北大学大学院 生命科学研究科 助教）  
竹原明秀（岩手大学 人文社会科学部 教授）  
竹門康弘（京都大学 水資源環境研究センター 准教授）

【参加申込み】

- 添付申込み用紙に記入の上、ファックスして下さい。  
同等内容のEメールでも受け付けます。
- 締め切りは平成 25 年 1 月 10 日（木）です。

【ワークショップ会場と交通】

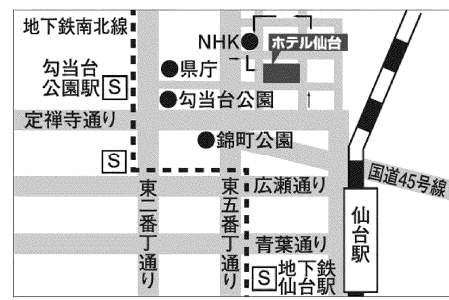
- 会 場：仙台市青年文化センター  
〔仙台市青葉区旭ヶ丘 3-27-5〕
- 交 通：仙台駅から市営地下鉄・泉中央方面行き 10 分、  
「旭ヶ丘駅」下車、東 1 番出口より徒歩 3 分

【交流会会場と交通】

- 会 場：KKR ホテル仙台（仙台市青葉区錦町 1-8-17）
- 交 通：市営地下鉄勾当台公園から徒歩 7 分  
仙台駅から徒歩 15 分

【申込み及び問い合わせ先】

- 応用生態工学会仙台  
〒980-0012 仙台市青葉区錦町 1-7-25  
（株）復建技術コンサルタント内（橋本正志、佐藤高広）  
TEL：022-217-2030・FAX：022-217-2036  
E-Mail：masasih@sendai.fgc.co.jp  
学会 URL：http://www.ecesj.com/J/index.html



参 加 申 込 書 (FAX：022-217-2036／応用生態工学会 仙台)

下記のとおり参加申込みいたします

申込み日：平成 年 月 日

氏 名	(専門分野： )	正・学生会員 No.	
所 属		賛助会員 No.	
連絡先	自宅 所属 (いずれかに○) 〒 — 住所： TEL. E-Mail：		

【参加申し込み事項】		資料代等 (いずれかにチェック)	
①シンポジウム	【1月16日(水)】 13:00~17:30	参加・不参加	500円
②交流会	【1月16日(水)】 18:00~20:00	参加・不参加	4,000円

※資料代・交流会参加費は当日、受付でいただきます。  
 ※申し込みいただいた個人情報は、ワークショップ関連のお知らせ以外には使用いたしません。  
 ※参加申込みは、応用生態工学会 HP の“行事案内 (これから分)”からもできます。